

かわら版

相澤病院
医療連携

患者さんに
役立つちょっと
いい話



2023.1 NO. 19



今回は、2023年を迎えて、
これからの病院について、皆
さんにお話します。皆様にと
って2023年が健康で幸せ
一杯の年でありますように。

2023年は新しい事に挑戦を

明けましておめでとうございます。

穏やかな天候の下での年明けとなった本年は、「癸卯（みずのと・う）」という兎年であり、新しいことに挑戦するのに最適で、景気が好転または回復する年になるだろうと期待されています。

3年間にわたり我が国に大きな負の影響を与えた新型コロナウイルス感染症の今後の予測は困難ですが、私は、今春には収束するのではないかと期待も込めて思っております。今後の「ウィズコロナ時代における医療」では、「国民の受療動向の変化」を受け止めて、コロナ禍で明らかになった「医療提供体制の課題」や「医療デジタルトランスフォーメーションの遅れ」を早急に解決することが求められて

います。

一方で、2025年以降の少子化人口減少の更なる進行、特に働き手人口が急速に減る中でも高齢者人口の増加が進むという人口構造の変化を、確かな我が国の未来としてしっかりと認識し、時代と社会の変化に合致した医療制度を構築することが必要となります。



総合力を発揮した1年に

人口構造の変化に伴い、我が国の社会保障制度の継続が危ぶまれることから我が国は「税と社会保障の一体改革」を目指し、2013年に公表された「社会保障制度改革国民会議の報告書」に基づき、2025年年までの医療制度改革を、「社会保障改革プログラム法」に定め、改革を実施してきましたが、



社会医療法人財団 慈泉会
Emergency Medical Care and Holistic Care

相澤病院

相澤東病院

医療連携センター



思うような成果が挙がっていないのが現実です。

このため、我が国の政府は「全世代型社会保障構築会議」が2022年12月に発表した「日本は、本格的な少子高齢化・人口減少時代を迎えようとしており、今はまさにそれに対処するために舵を切っていくべき重要な歴史的転換期」とする報告書に基づいて、今後の医療改革を推進すると思います。

慈泉会は、少子高齢化時代における医療需要の変化を予測して、2016年に相澤東病院を設立し、基幹型病院としての相澤病院と地域密着型病院としての相澤東病院の役割分担と、それぞれの病院の機能強化



に加え、地域在宅医療支援センターの拡充による在宅療養支援の充実、定年後以降の健診や予防医療への取り組みなど様々な改革を行ってきました。しかし、「役割分担した各事業体におけるそれぞれの機能の強化」や、「事業体間の緊密な連携による慈泉会の総合力の発揮」などは十分とは言えない現状であり、「安心して暮らし続けることのできる松本を創る」という慈泉会ミッションの達成は夢のまた夢であるといわざるを得ません。



職員一丸となって改革の原点を

各事業体は、慈泉会が2016年から始めた「改革の原点」にもう一度立ち返って、事業体が直面しながらも積み残してきた問題や先送りがもはや限界を迎えている問題、さらにはデジタルトランスフォーメーションの課題に正面から立ち向かって答えを出す必要があります。医療を取り巻く環境の激変が予想される今、早急に問題や課題の解決を図り、慈泉会と各事業体と職員の皆さんが一体となってミッション達成のための新たな一歩を今年度中に踏み出すことが重要と思います。



また、コロナ禍では地域の

医療機関の役割分担と連携・協働の仕組みを普段から構築しておくことが極めて重要であることが示唆されました。慈泉会は医療連携センターを軸とした医療連携を進め、成果を挙げてきましたが、もう一歩踏み込んだ連携の仕組みの構築を検討すべき時代に突入したと考えています。

いずれにしろ、本年が職員の皆様にとっても慈泉会にとっても新たな飛躍が始まる年になることを祈念し、1年間の

皆様の健勝と活躍を願い、私の年頭の挨拶とします。

2023年1月4日（職員に向けた2023年相澤孝夫理事長年頭挨拶より）



〈ご挨拶にある2023年「癸卯」ってどんな年でしょうか?〉

「癸(みずのと)」は静かで温かい大地を潤す恵みの水を表し、十干の最後にあたるため、生命の終わり新たな生命の成長という意味を持っています。また「卯(う)」は穏やかなウサギの様子から安全、温和の意味を持ちます。他にもウサギのように跳ね上がるという意味があり、何かを開始するのに縁起がよく、物事が好転する良い年になると言われています。そのため「癸・卯(みずのと・う)」は、今までの努力が実を結び、勢いよく成長し飛躍するような年だとされています!

相澤病院のビジョン 2023

相澤病院
田内克典院長



1. 救命救急センターとして、患者病態に応じた迅速で的確な救急医療を実践する。
2. がん診療連携拠点病院として、悪性腫瘍に対する手術治療から集学的治療まで、一連の質の高い医療サービスを提供する。
3. 基幹型病院として、長野県の医療計画に記載された医療、相澤病院の強みとする医療を充実・強化して、広域型医療を展開する。
4. 必要な疾患別リハビリテーションと入退院支援を行うことにより、患者の早期社会復帰を促進する。
5. 患者と真摯に向き合い、最適な医療の提供に努め、継続して地域住民に選ばれる病院を目指す。
6. 職種間のコミュニケーションを良好にして、多職種協働による効果的なチーム医療を推進する。
7. 相澤病院の職員としての使命感・倫理観を持って、職能を磨き、患者の視点に立って、適正で安全な医療を提供する。



相澤東病院のビジョン 2023

相澤東病院
宮田和信院長



1. 地域密着型病院として、広域型急性期病院（基幹病院）には入院するほどでない急性期患者に入院医療を提供することで、患者及び家族の負担を軽減する。
2. かかりつけ医との連携により、24時間対応できる往診体制及び訪問診療体制を構築すると共に、訪問看護ステーションとの連携により、24時間対応できる訪問看護の提供体制も確保する。
3. 生活機能障害の増悪や嚥下機能低下が見られる在宅療養患者に対し、入院による集中リハビリテーションを行うことで機能改善を図り、在宅療養生活の質の維持を図る。
4. 相澤地域在宅医療支援センターおよび急性期医療を担う相澤病院との緊密な連携・協働により、患者の在宅復帰のための入院医療を提供する。
5. 相澤病院・相澤地域在宅医療支援センターおよびかかりつけ医・介護保険施設などの社会資源との緊密な連携による地域包括ケアシステムの構築を推進し、その中心的役割を担い高齢者の在宅医療を支える。
6. 職員一人一人が在宅療養支援に関わる専門職としての自覚と責任を持ち、慈泉会内部での連携を強固なものとし、多職種が積極的に協働するチーム医療を基盤に、在宅療養患者に良質な医療を提供すると共に家族の介護負担を軽減する。